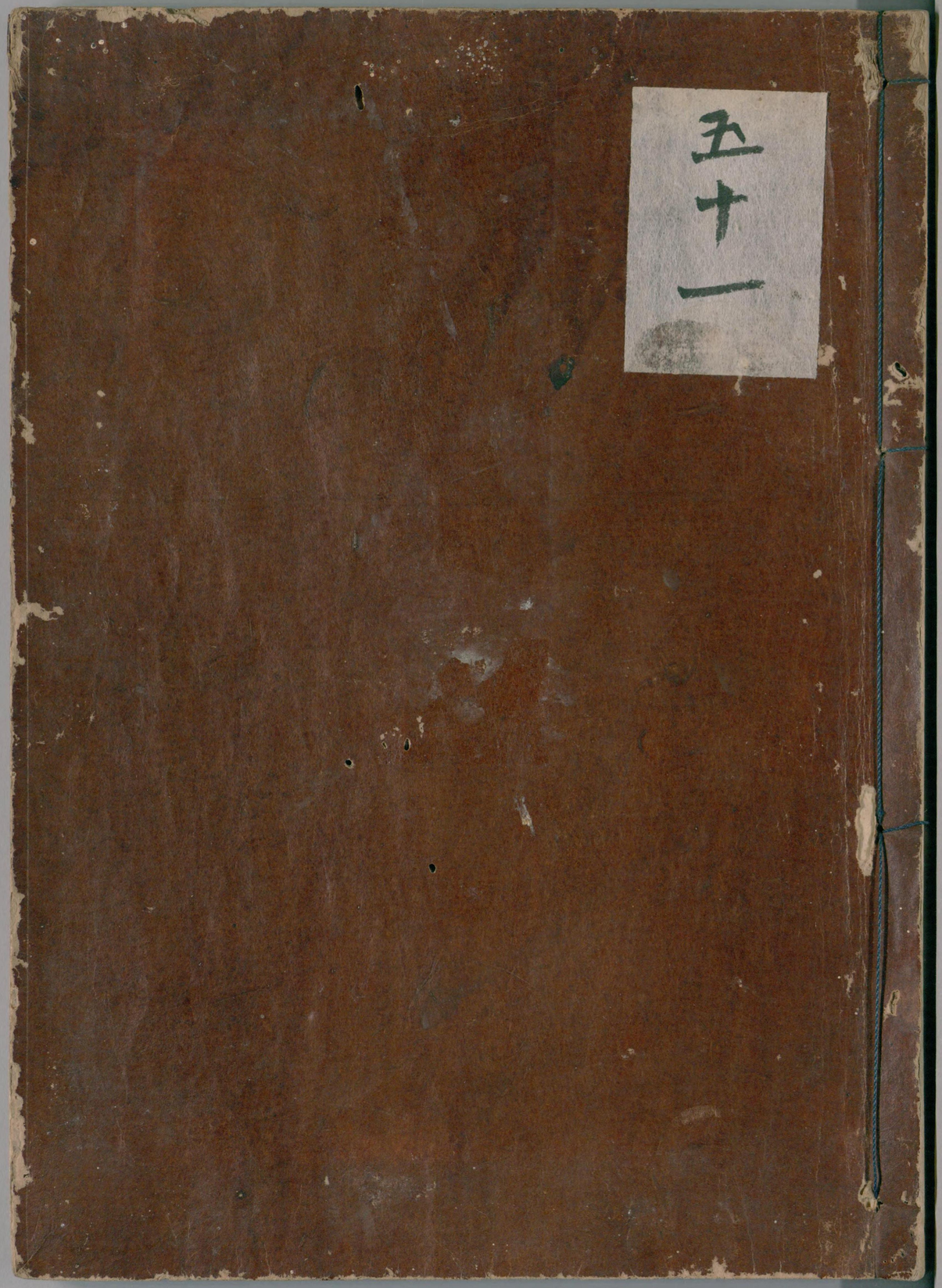


国立国会図書館　　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号

ガラス使用

第五十一

共五十四巻　渡利邑松浦氏

白ノウキ舟ヲ二条ノ尉ニテノリ

白なとのなかなかなるしタをおりしますおくを
なしことくし気程にやあれましまなりしを人
うらのまうやうにおりしうもあつらしうなといふ
あるなる所ミむをくらおしうてやミすしましとね
たうおりさおくまくうし女中志をもうしたうれ気
おとゆくあれがりにあるれすぢめ物すくみ志給ヒ
中君ヲ恨ヘリ
けりおもすびにむうしやこうつし絶えしるゆへ
行おりくいいとくるしきてありのまくうやゆるし
てましさおほをとやむことなれさ海まれりくな
蕉ノ浮舟ヲコトノくシクハメサレスシテサスカニ心フカクスヘシヲ玉ヘルトヤ
三のまんざなまどあさうのならぬうくうしむとく
めて人のうくしをまおへる人をそのひ所づなく

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号
ガラス使用

此三昧さうなといとこうちくをさてられさむと
なんぞのゐるうよひ語ふまいこぞの秋のころよりを
はあつらしよりとしばくそのし絡なり志もの人を
の思ひて申しに女をなんりくしすへさをのへる
ひしうをあらずおぼす人なるへしあれまさりに
らうしのふ所その人これおほをぼて氣りけうう
まつ所とのぬうしさしあくなりしけく京よつまも
いやしおひてさるへ所をしかとくそ世語ふ(内記同)いり
なるさいちひ人の所をりふひおそくそぬのへな
なんとなんさくこれ志えをの此ほひ申しと字
ぬへしやぞ事いとうましうも(くイ)字語ろ所とおぼし

てたし(白ノ句)りふろ此人とをいえすやうしこうりと
よりたる所あ(内記ノ句)そとふひ語とさし尼をらうふ
なむをさ給なるこの人を今立られさるまなんき
たるけなき女房なともあまくこしてくらせしうる
ぬけちひまく并て給ときあ也(白ノ句)なしまもしうな行
むのまくいりなる人をりすへ行へらんなをいと
けしきありてなくて此人は似ぬ所あるなりや
左の(ノメ部)おくなとあの人のわまつ(タケ)遊山にすくこて山
なる東ろ所へとさすれもとそ下里のなるゆろくく
志さやりど氏語ふときくしをげふなどのさしを
佛のみちまを思ひありくしむれの ぬる里にむ

方も家人（白ノ家人）ものして山ちまたのひとる事とつ天く
たからんさ間にいへなとせよとの給はいやあさ（右迫ム）
ましくあきれてしもなかるにけるを取入あやまちを
思ふにむ地もまとひぬへき我心しつかていかゝ
よろけにおもひきさまくともひあらじ物しし
なめ事なひあやしうつしなるにいやふうれ（二条院三ノ）
なしいまさらしもうれかれさるにけるにまくを
にこそけるけまさ人の志ならまさうかや思なくさ
かて（右迫ム）にふ所しる色まて給しをいかしをさ愛た人
なんやをうにことすかうのかれきこしさを給
ましかるけるにまくせぞいやきこしさ努給らん

ことなし我をこそいとまるなく給ふ事
いでたましまくにんさし給らまれやうのまとと
中の事（白ノ人）たよすをてをいふかなとおりして我（白ノ）今月は
相思ひつ所にあまきまてまはれハ人のりどりんもい
らんもしらぞひとゆるにしむなりまるすとし
をかへことを思まくうしむ人のあらんあらきを
思ひ立なんや所はまふにはふ物いるなといふ色
かし人にしらるまし矣ことをこうこあまと思へ
かしこと事人りひなしとのかてあの人（浮）の世ろ
しずあられにおかさおくまくふ（きイ）よろ浮のろし
まも忘ひぬへし右を出くはをとなふ人にかく

なんの居たまするを[右辺白]おいとうへ[illegible]
さをぬへあさましうめつらのなれ所ありさ[illegible]
さ[illegible]しめをともうる所[illegible]人とも[illegible]
あらめいりさかうむ[illegible]さなうを[illegible]
かめ[illegible]なるあとをやしさまる山がけなりも[illegible]
ましかもいりなりましといふ[illegible]
[illegible]しくもあるかと思ふてゐ[illegible]
ら[illegible]ハこれにうさ[illegible]なんとつ[illegible]
が[illegible]事やとのおそろしけ[illegible]
けくまりぐぬべしまのやのまをとろのなるぬ[illegible]
けしき[illegible]みをれもなれもしく力を捨てなんよし

よしとのぬ人もこれにきぬなりとていうを出ぬ
[illegible]を人ましうそましうもいつく[illegible]
まりかうおなゆ人と[illegible]ぬるうし殿[右辺白]そさるやうに
[illegible]ひさを[illegible]
[illegible]しきまし[illegible]ありけるおめり所そ[illegible]
よさるを思ひてさいおへくるむおほをられ所
なといふ[illegible]つけやこそこやさもいや
おうろしのなる山がうしれぬ[illegible]
ぬるびやけれておもしましけんよあるいしや
やい[illegible]ぞあかうさ[illegible]下をなとのちりうりつまも
きこさんまいしいしからんとのひ井さらむ

ましのきりて世をたらせいかやうに世をしなし夜
新よりせん人も思ひより給りしこゝろあさましけれど
う気力まもすくろなる事もいせくるしうとそう
むさぬ人つ実もまゝあり紛て識(白日)につゝしと思ひ
世捨ることもあらんはいかゝ新なるへ気だろ
そ所さゝあまをろうなる人うれ人もありなしか
とゝう世新迄ようあれ人まもあらなう思ひなし
のふへつかりうまもさるへまにようさせことゝ
新くを思さく給所心の姫(中ノ浮ノ下シ白ヘカクシ玉ヒシ)気なむいせひうえ世
の給ふもまくを(白心)人をろうなして為(浮シ)ようさしうそう
しせおりしいけるふなみくぐさまぬさうやうなる

蕉ナトノ媒ミナ女式嫁娶礼ミヌナトナキ右細ヘアナトリカロシメ玉フト中若思合ヘ

給いせ給しういかや(中心)うなる事を世のくるからむと
れとろう新くにいら人世を給ふんましをすし相
うかなれさ海まくみそのゆひしになふことをを
ふろらうにをしハうを給ふこそハあらぬ先をぐろ
なる人(ゆゑ)を志るへまそしうのんこせを思しをはしめ
なとしさるあやまちいりをまおけしおとるかり
ようとおけ(中ノ)しにくくるもうろつるしくそ(いとくイ)らう
さけるるにけるひなりの人(白心)ミろ(浮)あるるあとを
志しし志う努なるじとおけをぜあとざ南ようおも
つ要て恨給ふをあ(中日)これ大ねの内事をまゝあく
しをの(白)給とおをひは人やうしましをたしのなる

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　　ガラス使用

なり二月（キサラキ）の十日の程に内（ウチ）よりまかでさせたまふ
ことみ（ミ）やもたゞ（タヽ）ならずおぼしめしたるにあひ
さま物へわたらせたまふ（フ）ことのいとゞ
さわがしくなりゆくにひめぎみ
あまうへまきらはしかしづきたてまつり
やまとだましひ（ヒ）のかしこ（コ）き人（ヒト）に
なしたてまつらんとおぼしたるに
てをこりがましくひく（ク）出（イ）だしたてんも
ねびゆくのひかりまばゆきまで
なとおぼゆるものから
なほ（ホ）ゆるしきこえ（エ）ざりけり
うひもやとうらもど（ド）のつゝしみ
まきひまの程つゝしもりやう
うへ人さぶらひ（ヒ）てこゝろ
ものどかなるに
ふぢ（ヂ）の花（ハナ）のいろ
ふかく見（ミ）えわたりて
なつかしきにほひ（ヒ）
なとはゆるもひありきぬ

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号

ガラス使用

物もきあしのさすなやましけはせき努行といふ色
ばあやし（母ノ同）気ことうな物のあなとうやあらんとい
ふなる（三）所（三）ひちぢや思へど石山（月ノ障）どたつるに気がじと
いふもうらいたれば（浮）ふ先なり善さ月いやあ
かしまぬ（浮ノ）ぬ宅をしいりなみたへいとくとあり
たまきいとけしうらぬひうなと思ふ母君ひし
物語なとしてあなたれ尼（弁）きさらひ出て（大君）お姫君の
（三）所ありき海ひふくれもしてさるへき事も於ほし
いつきたるし程にめにみをしくきこいり給ひし事
なとそこ於れもしまきましうじみや入（中）う色なと
のやうにやましのうらひぬそひにほそうるし所まさ海

とものあられき所さいはひまそ給ひましかし
いふまと我（母）山をめいことへかし思やしなるまく
せのれもしまそむをとうじとなと心ほく宗てら
とくりに此（浮）君にほまくやきのをのそ心みたれし
ほし気入すこしうちゆるひて（母ノ同）ふくまさりぬめべ
のめまをあらに海いつまくるをしかすしを妹
あらはそもしさうら給らしうるあいめのおりくに
ひしのことをひれやうのまさこしけ給いし海
ほしけまなとうくらふゆ（弁ノ同）しき力とのこ思ひへ
しこすしうぞこそやうにみしをりやましさきんを
まかうそとほくましくて（スク）思し給つ所をうらまて

てわたらをぬるぞいとしひほそくなん侍へはまと
うろ所すさぬ者ひもとなくのミみさくまろる様
うましくも侍るべかなるうれ世にしらずおもお
もしはおりしまもべかめ所とおくほ三さ海まくうく
多つ御ゆるしさを給しこ於ろ事なくじせきこそ
を気侍ましうる気たる事にやまを侍りけるなといふ
母同 姫をしらねとこ今をおくおほしたるれぬさ海
にの給ふほをてもこ所 弁媒ユヘトシ 三おへをなん思出やの事
所宮の中う色のうしあなくあたれにおりしまを
しも所 白ノホノカニ見ルカラひしし しまことかとのものつうら侍りしう
なる宮に所世気所方なりと思なを気侍てといふ

尼君うちまらひそこ所 弁同 宮の白 ひとさはりし気まそ
色におりしまをなれそひ要うらんわる天人さふ
らひまくきふなれなるくハいとうそたまほ
さ海なまと所るまろ所まくう中 色のなめしと
けなさんなんまりなまとこゆふうむを絶れ君さ
お侍しといふことさるやましてと 字 君をきふ
めへつまうれ 母同 ひくけ事やみうやの所むすめをもら
所こうらぬへ所人 ふれ なれどよそくまくうしく言
らくもうらせきいうしまんと 母ノ仏 おをなく思ひ
あし侍るよりうぬ事をひ気いて浮へうましうも
すべくみまをうなしくいとしと思きこ用やとみ

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号　　ガラス使用

日ころのひたちの守にもたびたびもてなし
とりわきてかしづきたてまつりしかば
こなたざまにとぶらひ(使ノ汨)
きこえなどしたまふ
ものからやはらかにもてなしたまひて(白ノ使)
まめやかにあはれなるさまにのみ
聞えくらしたまふ
文などもいとこまやかにあるべきことを
うやうやしくもてなしたまへどあまりまめだちて
やうなる色にもあらずなつかしくあはれなる
ことのかぎりをつくしたまへるさまなどいとど
(使ノ汨)
うくいとなでといふ
文などもいとこまやかにあるべきことを
うやうやしくもてなしたまへどあまりまめだちて
やうなる色にもあらずなつかしくあはれなる
ことのかぎりをつくしたまへるさまなどいとど

(汨ノ方)
てうつきよさうにもとのたまはせ
わたりて文のかずやうやうとどこほりて
ゆかりの人とてもとりわきてうちとけ
すき物どもをえらびとりつかはせ
ねりのひとよりをりもてきこえ
のよろづにてかくれたるかたをもとりわき
(汨ノ方)
(汨ノ方)
(汨ノ方)

とひ給ふ此人のきりんと侍しまして思ひしこ
まるまでをり後も志かの君志り給ふ出給ぬ実(性石)まゐな
らひなやましけにおりしまをとて実さらもみな尸
いつま行人ゆゑ上を弟なとおなく尸いつまほどひささ
はしけまぜことなる事もおもし尸あぞうの国
記ぞ上くらんまれきをくれてそまいまる此所ぬ
みをさそまつる我実(白)多いたん所におもしまして
戸くちまめしよせさやうまのを大(多)ね所まへのかく
よりさらいく給ふうぞめふ見をとしのてまち(多)ゐに
もおなすへうめかふこの所しまうなとおしさふ
志とさつま行人おひ気あきてみ給ひくれなけ人うす

やうにこゝやうにふう気さらへしせみ面ふこまひ
いまてとこまもむき給ひぬに於(多)ゐくもあらてと
さ後におもひ思へこの君(多)ゐにうじよりいて給と
ておくいくのふとおもしふ気て於ところのなり
行ひきうし給へるまそおこしのそ此のへ新
おやろ気て所ひもあし給ふとの(多)もつい井のそ戸(多)白
りく結めへしれゐの所しやけの外しくおあるを
ぬへさまほうをおうろしきまさなりや山の座宣
こくいさうじまほうへさんさいうしまくく
さらのぬ夜ゆをてこれ出行ぬ於(多)とくき実(白)をされ
にさしをりぬそしのまるこの所子とこのうんさら絶

おもとを引ゐてのくめたまふ
をそくれなく出給ふ方々うち
しめりそれぞれ給ふをとゝめ
まいぞんのつゝもやつゝまれ
ぬるのみ
めのとのうへなどもまいぞとく
ひ
ものまゐりなどするほどに
ひぐらしの雨のそゝ降方の
わびしきにやみのうへはをてもうくとひねつ
にとらをねぢみのへはをてもうくとひねつ
まゐりたるにくおとしたまふ
をりにやみをてもうくとひねつ
ものまゐりなどするほどに
ものまゐりなどするほどに
ものまゐりなどするほどに

らしと思ひけるようおさなけまさてもたゞねあ
そうはこうさるまゝことをこの法をめむしよ
お面をくなくてあやしきまでたるべしぬくがり
きさてまわり道ましをうしろめたくおりしよう
面しやせ思ふまいとむ法気なしあひの中のたゞの
此事をいうしく思法く年ころ色をまりむれをも
さあられかりけるさ所をうまぎ今始てさ海あし
ある面を程にもあらすりとよつの夜よりまをよ
まろ程たくむのうちおく海あうんがまりたゝめを人のためも
とるしうるへ天まよりこう思ひまくの所もをこ
なるまさなりけまはしろかくなやましくしけて

まはよろこを人をけ気まきれまいりてはうくと
う気やるまゝあるんおもしやろうまあんいとまう
かまう年あれ夜なりやあやしまておりし法為
ちれ結日もありときそそ気ましあやすのことふ
ちれそうこうとなくおやを結ふなうへしむ
りしをおほしいけるまをそおちせさうさしおやれ
なをおいとくおしぞなりきりし法くくと思ふ
に女(ほ)のいたくものとさうさまなるしもかたし
むのうの紛てやうろのおなしにりすおよいを
うしあり所を気掛を人のむまとをうるらうさは
におなとうなりとそみそなりうち笑(ウキ舟)の気さうかた

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　　ガラス使用

波あ田ゑよろともしすまの松下つくんとの
只思ひけるうれ人(文)まゝらつ要語なとうなをいや
めやしと思ふにひ[illegible]ぬ[illegible]
まゞかまゝんをいやしけしまくひがことまく
あらんとのやしけれ[illegible]文をもとのやうにして所
たが色のやうにみえ侍連をなんめやしをかやや
しきてなにことゝとうそへそへて[illegible]見訴(ウウ)
て所をうにいてくかしこるうなりあてみをよそ
ぬあらわざへよとおく思まれ語もすくしとそそ
おもしきてぬなかめりまなならはしほのめりし絡
色ならしまをうしこまぎいとしいふついに我

力はけしうすわやしう成ぬへ気なめりといとく
思ふ所にはをきくとのくの(ウウ)にはしをうし
せのつおそ持しをいみ侍ルなれそのをとい色ハ
ひ(浮河)うことのうる取うにみし侍連をとらうへ
うやてとの語あやしとみけ連を[illegible](右辺ノ文を尺ノ)あてみ
あれなれ[illegible]ら(双地)ひのををがさ夜やかうつとハ
いまてあれ(右辺河)いしけしくるし気にあやくかにうう
侍連(ウウ)とのを掛けしまにらしこうでしとのふ
におもて(浮)所やうりこて物をの語をば文(ほがん)ひけ
とそおもをみをとざ南にそのはけきみる
人のかゝるをたるにしそりに思ふにされりさいふ

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

のて掬ないくなぎり世語うやをきろへさきの
もいとやくすしさづるこう母の思ひいくばかりし
さうを語掬をまくうこれ語いうぎにしくとも
どひ抔て侍ほほまくこうまとりあるこかと白カラ
さ努縮こそいとぐるしきいとれしけまといふ
ふいとうとうくて抔そうし気まで物なしさ努
語うなふことを語まくさまくこそあらぬこぐ語
これうちまをこしおりしすびりんまをさるへまに
おほしなりを語へいぐや白ノ也そうしあなくいるん
三気語にしまなりしかぐ人のかくおぼしいうぐ
めつまりくにはもしもよろびしまくしきうくろへても

語ものまきらを語こんにより世語ねとぞ思ひ侍
也白をいみしきめでやの頭ひなれぞひらみちは
いふいさやおを石辺詞をとてもうくてとことなくそく
させ語へとまつを石山なとに歌をなんこそ侍ル
大ねの殿のみさうの人といふこのそいうし気
てうのこのやをまくひと数にこのさやをみちく
侍りや大うくあの山しろやをとふ夜のちうぐ
所くの人なんこれこれうどねりといふをおくゆ
かりの事にて侍るそれのしあれおをのこゆふ
やいふこのをもとくしてよろけの事をを気て侍
られこうかやよき人の語なりとうハなさけなき

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号
ガラス使用

をこそ見て侍まいらないもえ志り侍らびさるへま
おのことも見えざいなくりはしさふらを努侍り
をさのだしきのひじやうのことれさ曲らえんをぞ
いくうけ給りぬやうや侍らんとなんやさ
を侍りけるようりして西ふらへびんなることを
うらもおもくりんざうをしめみへまよしる事
おほをまし侍りつれどいりなるおなぜことう
りそおろまや侍といふをきくに曲くろふのな
りんよりもいと掬おそろしいら色を取らでさるを
やましさをしにさがさぬことどもを覚あし免せ
掬れたし天下御覧しけるなかめり西せうそこも侍り

ぬらなとすけくめのとそほのうちきくていやうう
ましくおなをられさぬを人おなうなるわらを
まとのぬ人もはしめのやうまとうす皆みのう
ちわろやいひけるやしきトををいらすれを
[illegible]をぞふをぬまとよろあふ君をけまさくと
いとかしをなりぬ人きかかめりとおりをふみや
よりはいふくと昔のみるおくまりかさ[illegible]の給
いやまつ雅いしくてるんとてもうくてもろとう
たかくうけをていとうこさられ事人出来なん
まつかひとつのなく成るむのこようめ屋をのう
めむりしを来さうをる人れうりさまのいけまと

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

やえるんと思うへを京よりたく乃はふえそて志
ゆるねぬるうの様のよいとさはしく見給つ達
もそぞ鐘ところ〳〵ふをさ変なせし絵とやりて
うの夏のぬらねられさるまつ氣あまやさく今ひる
ねして絵るゆめふ人のいひといふことなんみし
給つ達れ様やろ気なりうこそまつるよく候くし
ませ行へ人をかれこる御すさぬまくとれくこら
よらせ給ふ人の所ゆ女二ひもいとおうろしくなや夜
しけに掲せき変給たるしもゆめのうろをよろ所
にる事ふ給ふ氣雨のまこ夜ほしき絵かぬ乃かく
の様いとしりとなまふ掲の事こちてなやみ絵達

きてくときも立さるまし世いみしくいまれ絵て
なんうのちりきちまも御誦鐘せき勢ゆへとて先
まうのもの文なとう気そへくりてきこゆきり（ほん）
と思ふいれちのをやをしてでうくいひ候く世給
へかをいやうるしや思ふ事へやをこらおとう人を
ことくいしたりし気ことおかうまとと候くまし
くそこく

（ウキ）
（末世トシ）
ぬらに又あひみん事をおもそすん此世の夏に
ちうろまとそ誦鐘のかねの風に候気てさこし
くるを候くしときこふしかな
（ウキ）
鐘れをと浴多候るひくきふねをうへくまつ世

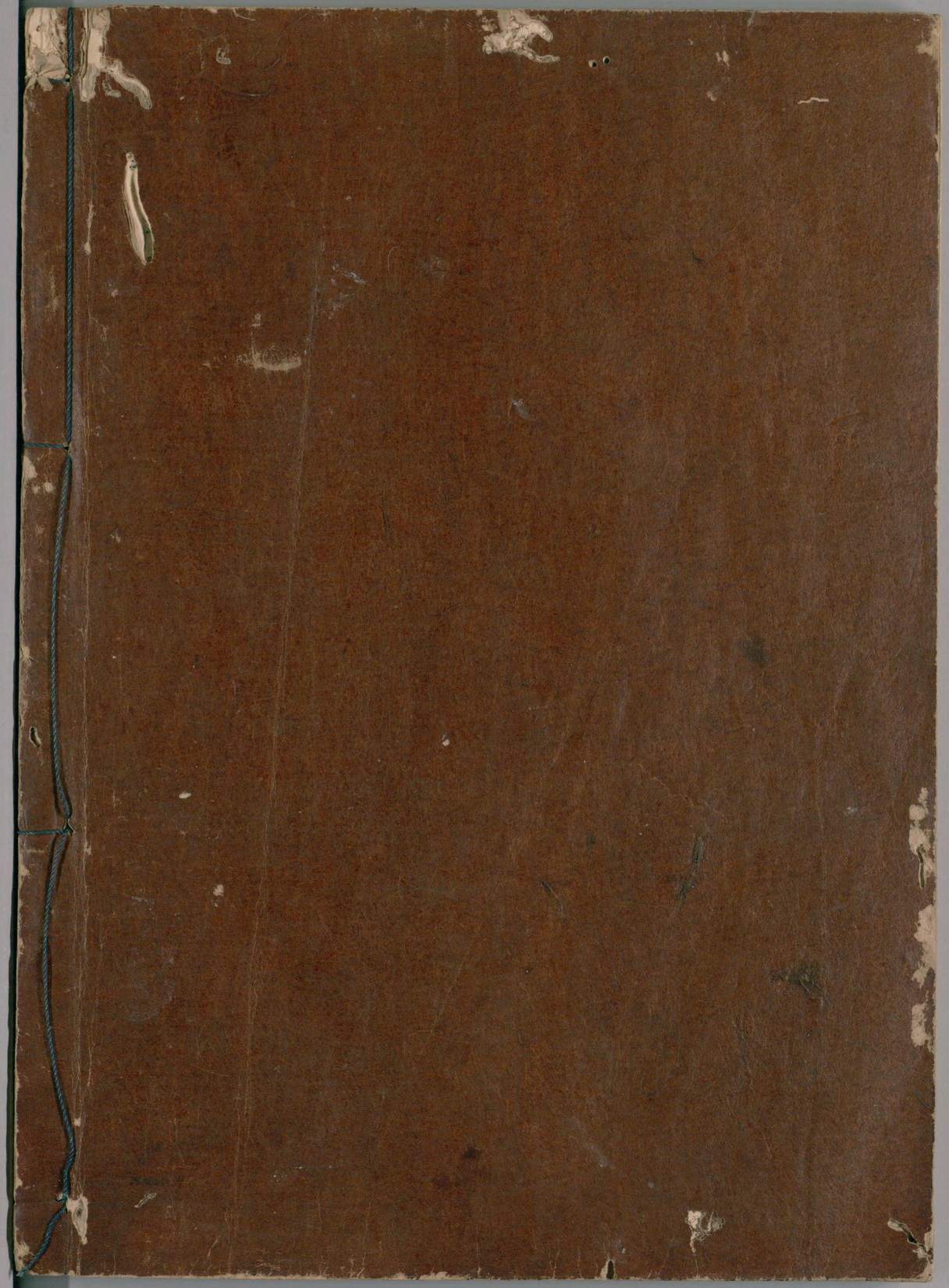
国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　　ガラス使用

六十六

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号

ガラス使用